

「大丈夫だよ。ひとりじゃないよ」



8月21日(日)に放送された、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の中で、1人の人が自害(自殺)しました。今と違って、人を殺したり自害したりすることが珍しくなかった時代ですが、今回自害した(お笑い芸人ティモンディ 高岸さんが演じた)仁田 忠常の姿は(ドラマの中で描かれたお話ですが)、今の時代の人にも、そして上尾橋高校の生徒たちにも重なるような気がするので紹介します。

<ドラマの中のお話>

仁田忠常は鎌倉時代に本当にいた武士で、北条家の小四郎(北条義時)を信頼していました。(ドラマの中では)小四郎に頼まれれば小さな子供たちのお世話をしたり、ボディガードのようなことをしたりと、やさしくてまじめで一生懸命な人でした。

ところがその彼が、その時一番偉い人だった源 頼家から、小四郎のお父さん(北条時政)を殺すように頼まれます。まじめな仁田忠常は、すぐに断ることもできず、かといって北条家のお父さんを殺すこともできずに悩みます。悩んで困った仁田忠常は小四郎のもとへ「相談」に行きます。きっと小四郎なら、自分を助けてくれると思ったのでしょう。

「小四郎殿、相談したいことがございます。」と仁田忠常は真剣な顔で、目の前を通り過ぎる小四郎に声をかけますが、「急いでいるので、あとにしてくれるか?」と言われてしまいます。すると仁田忠常は「でも」とか「少しだけでも」などと無理にお願いすることもしないで、にっこり笑って「かしこまりました」と答えました。結局小四郎は「すまん」と言っただけで通り過ぎていき、仁田忠常は悲しそうに小四郎殿のうしろ姿を見送ったあと、自害してしまいます。知らせを受けた小四郎は冷たくなった仁田忠常の姿を見て、無理なお願いをした源 頼家のところに行き、歴史が動いていく...というストーリーでした。



この仁田忠常を演じたお笑い芸人ティモンディの高岸さんはこのシーンについて「忠常が自殺してしまったのは、今までの自分は何だったんだろう、今までやってきたことは何だ、そして自分って何なんだろうとわからなくなってしまったこと、そして、一番信頼して頼りにしていた小四郎が、話を聞いてくれなかったことで、心が折れてしまったのかな。実際どうだったかはわかりませんが、あの時代に行って<大丈夫だよ。ひとりじゃないよ>と言ってあげたくくなりました。」とインタビューの中で語っています。



このシーンを見た時、わたしは仁田忠常ではなく小四郎に自分を重ねました。保健室には1年中たくさんの生徒が「相談」に来ます。「体調が悪い」という言葉の裏に「相談があります」という言葉が隠れていることもあります。もちろんできるかぎりみんなの相談にのりたい、一緒にどうしたらいいかを考えたいいつも思っていますが、保健室にはわたし1人しかいません。1度に何人も来ることもあるし、大きなケガなどの緊急性の高い時には、保健室に来てすぐに「今は無理だから職員室に行くように!」と言ってしまったり、健康診断や保健行事があれば

「ごめん、今話聞けないんだ。あとでもいい?」と、小四郎のように全く話を聞けなかったりしたこともありました。それに対して仁田忠常のように「あ、大丈夫です」と気を使ってくれる生徒にもたくさん出会ってきました。今までそれが大きな事故などに結びついたことはありませんが、「あのとき話を聞いてあげたかった」「もっとゆっくり話を聞けたらよかった」と思ったことは何度もあります。



残念ながら私だけではなく先生たちも、授業があつたり他の生徒の対応があつたりして、あなたが望むときにすぐに相談にのれるとは限りません。小四郎のように「急いでいるので、あとにしてくれる?」と答えざるを得ないこともたくさんあります。

でもそのときに、仁田忠常のように「かしこまりました」と言いながらあきらめてしまったり、「どうせ自分の話なんて誰も聞いてくれないのだ」の心が折れたりして、相談することをやめないでほしいのです。

自分から「相談」することには、とても勇気が必要だし、勇気をふりしぼって「相談があります」と言ったのに断られると、心が折れてしまいそうになるのも無理はありません。

でも「小四郎」に断られても「ほかの人」が「どうしたの?」と聞いてくれるかもしれません。だから、1人の人に断られてもあきらめず、ほかの先生やほかの人、学校から配られるSNSの相談先などにも相談してほしいのです。

相談できる人や場所は、今はたくさんあるからです。

埼玉県教育委員会では、SNS相談や24時間の電話相談を受け付けています。また、ホームページには「困ったときの相談窓口」も案内しています。周りの人に相談しづらいときは、いつでも相談してみてください。あなたの不安や悩みを必ず聞いてくれます。

SNS教育相談
平日 午後5時から午後10時

よい子の電話教育相談 【電話】 #7300 または 0120-86-3192 (子供専用)
毎日 24時間受付 【メール】 soudan@spec.ed.jp

困ったときの相談窓口
<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/172129/030623.pdf>

登録はこちら!
友だち追加

令和4年8月30日
埼玉県教育委員会教育長 高田 直芳

新学期が始まって、心配や不安を抱えている人はいませんか?仁田忠常のように、本当は悩んでいるのに、本当はつらいのに、周りの人には明るく元気にふるまって、悩み事なんてないように見せている人はいませんか?つらい時や苦しい時には、仁田忠常を演じた高岸さんが別のインタビューで語っていたように「一人で思いを抱えずに周りに頼っていくのは大事」なのです。

さて、上尾橋高校では、去年から1年生のキャッチアップタイムのアクティブコミュニケーションで、「困った時には聞いてみよう」というテーマで、大人にお願いごとや相談をするときのポイントを1学期に勉強しています。

- <困った時に先生や大人に助けを求めるときのポイント>
- ①今質問や相談、お願いをしてもよいか相手の都合を確認する
 - ②助けてほしいことや困ったことがあるとはっきりと伝える
 - ③助けてほしい内容を伝える(どうすればいいかを質問する)
 - ④お礼を伝える



①に「相手の都合を確認する」とありますが、相手の都合が悪かった時には、「いつなら大丈夫ですか?」と相談できる日や時間を相談しましょう。最初からうまくできる人はいないので、友だちや先輩、おうちの人、担任の先生などの身近な人と、相談する練習ができるといいですね。もしだれに相談していいかわからない、何を相談していいかわからない、そもそも何に困っているのかわからないという人は、保健室で一緒にあなたの困っていることや本当の気持ちをさがしてみませんか?気持ちを言葉にするだけでも、気持ちや悩みが変わるかもしれないし、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家を、紹介することもできます♪

「大丈夫だよ。ひとりじゃないよ!」

この言葉を忘れないでくださいね!

